

令和2年度 農林水産関係試験研究事後評価(令和元年度終了課題) 一覧表

大分県農林水産研究指導センター

【農業部門】

所属名	課題名	研究結果	評価結果
農業研究部	大分県産夏秋野菜の栄養・機能性評価	・県産ピーマン、トマトにおける栄養・機能性成分の数値化及び特性解明 ・後述の成分は含有量が高く、高付加価値化に活用できる可能性を示唆 (ピーマンのビタミンC、トマトのビタミンC及びβカロテン)	・成果の普及 ・成果の事業化
	稲こうじ病、いもち病に対する新たな防除体系の構築	・稲こうじ病発生実態調査により、平坦地の発生を確認 ・シメコナゾール剤による苗箱及び本田での粒剤防除体系を構築 ・ドローンによる散布効果実証、転炉スラグ施用による被害低減を提示 ・飼料用米の持ついもち病抵抗性打破の確認、対策の必要性を解明	・成果の普及
	イチゴ大規模経営体を支援・育成する生産システムの確立	・大規模経営体における安定出荷技術をまとめマニュアルを作成 ・4月の出荷調整作業と競合しない省力育苗技術を開発 ・「ペリーツ(大分6号)」の基礎的な生産安定技術を確立	・成果の普及 ・次期計画に反映
	「赤採りトマト」の周年供給体制の確立	・年5作取りが可能な周年多収穫技術を開発 ・糖度や収量に影響を及ぼす作型別の管理技術を示唆	・成果の普及
農業研究部 水田農業 グループ	経営規模拡大と低コスト化をめざした水稲乾田直播栽培の体系化実証	・高速高精度汎用播種機の利用技術の検証 ・多収米品種の特性を活かした栽培法の確立 ・経営評価及び「大分県水稲乾田直播栽培指針」の作成	・成果の普及
農業研究部 果樹 グループ	いつも美味しい! 「おおいたシャインマスカット」生産技術の確立	・光センサー(選果ライン型・卓上型・モバイル型)の実用化確認 ・出荷期間延長技術の確立	・成果の普及 ・次期計画に反映
	若者に魅力ある所得2倍の高収益、早期成園化技術「ナン流線型仕立」の確立	・自動灌水方法、地上部設置型育苗方法の開発 ・摘花剤の効果確認 ・植栽間隔、灌水方法、側枝確保技術などの効果確認	・成果の普及 ・成果の事業化 ・次期計画に反映
	県南地域を支える地域特産中晩柑の高品質・安定生産技術の確立	・「大分果研4号」の簡易被覆・傘かけ、早期摘果の効果確認 ・完熟「不知火」の早期摘果と土壌改良の有効性確認 ・「セミノール」の短期貯蔵技術の確立	・成果の普及 ・次期計画に反映
農業研究部 花き グループ	遺伝資源を活用したオリジナル花きの育種と栽培技術の確立	・わい性トルコギキョウのF1品種の育成 ・切り花トルコギキョウの有望品種の選定 ・突然変異作出のためのシンクロトロン光照射の吸収線量の設定	・成果の普及
	他産地の追従を許さない! ホオズキ栽培技術の確立	・収穫後の最適貯蔵技術の確立 ・ネット栽培マニュアルの作成 ・ホオズキとヤマジノギクの輪作体系の構築	・成果の普及 ・次期計画に反映
	日本一のホオズキ産地を支える優良系統育種技術の開発	・ホオズキの奇形株発生の原因究明 ・奇形株発生防止技術の確立	・成果の普及

※農業部門 11 課題

【畜産部門】

所属名	課題名	研究結果	評価結果
畜産研究部		(今年度は該当ありません)	

※畜産部門 0 課題

【林業部門】

所属名	課題名	研究結果	評価結果
林業研究部	次世代の森林づくりに向けたヒノキ優良品種の選抜	・選抜候補として樹高成長が良く、雄花着花量が少ない4クローンを選定 ・さし木苗の生産は可能であり、適期は春であることを確認	・次期計画に反映
	一般流通製材を用いた大断面柱材の開発	・スギ90mm角材9本をコーススレッドのみで組み合わせ合わせた合わせ柱を開発 ・90mm柱の燃焼試験により60mmの燃え代があれば十分であることを確認	・成果の普及
林業研究部 きのこ グループ		(今年度は該当ありません)	

※林業部門 2 課題

【水産部門】

所属名	課題名	研究結果	評価結果
水産研究部	魚病リスク回避型養殖技術開発研究	・環境と魚体の病原体伝伝子量から主要疾病の感染様式と対策を把握 ・飼育水の紫外線殺菌によるトラフグやせ病予防効果を検証 ・核酸関連物質の投与によるブリ免疫関連伝伝子発現量の増加を確認	・成果の普及
水産研究部 北部水産 グループ	ヒジキ資源増殖技術の開発	・ヒジキ生息好適地の地盤高を把握 ・増殖候補地選定のための流動等の環境因子を把握 ・母藻移植によるヒジキ資源増大効果を把握	・成果の普及
	ナマコの放流技術の向上と環境浄化機能の現場検証	・ナマコ種苗生産時のコペポダ対策の効果把握 ・ナマコの環境浄化機能の確認	・成果の普及

※水産部門 3 課題

(合計 16 課題)